

**WARM**<sup>TM</sup>  
AUDIO



**WA-DI-A ACTIVE DIRECT BOX**

取扱説明書 Ver.1.0



株式会社 サウンドハウス  
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3  
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222  
<http://www.soundhouse.co.jp> [shop@soundhouse.co.jp](mailto:shop@soundhouse.co.jp)

## 安全上の注意

1. 本製品を操作する前に、安全および操作のすべての注意事項をお読みください。
2. 本マニュアルは将来の参照のために必ず保管してください。
3. 装置およびマニュアルに記載されたすべての警告に従ってください。
4. 操作および使用の注意事項に従ってください。
5. 湿った地下室やプールの近くなど、水や湿気の近くで装置を使用しないでください。
6. 清掃の際は乾いた布を使用してください。
7. ラジエーター、ヒーター、ストーブ、または他の発熱装置（アンプを含む）の近くに設置しないでください。
8. 製造元が指定した付属品/アクセサリーのみを使用してください。
9. すべての修理は販売元に依頼してください。

## はじめに

この度は WARM Audio DIRECTBOX ACTIVE をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

Warm Audio は他の製品で数々の賞を受賞してきた中で、DI ボックスの設計や製造にも全力で取り組んでいます。高品質のスイッチ、ノブ、入力、出力、配線、そして世界的に有名な USA 製 Cinemag トランスを、堅牢な金属製シャーシ内に搭載し、長年にわたる優れたパフォーマンスを提供します。

DIRECTBOX ACTIVE は、驚くほど透明感があり、楽器本来のサウンドやトーンを損なうことなく、明瞭なサウンドを提供します。

さらに、入力信号を-3dB から-30dB まで減衰させる可変パッドノブを搭載しているため、幅広い楽器入力に柔軟に対応することができます。

## 使用上の注意

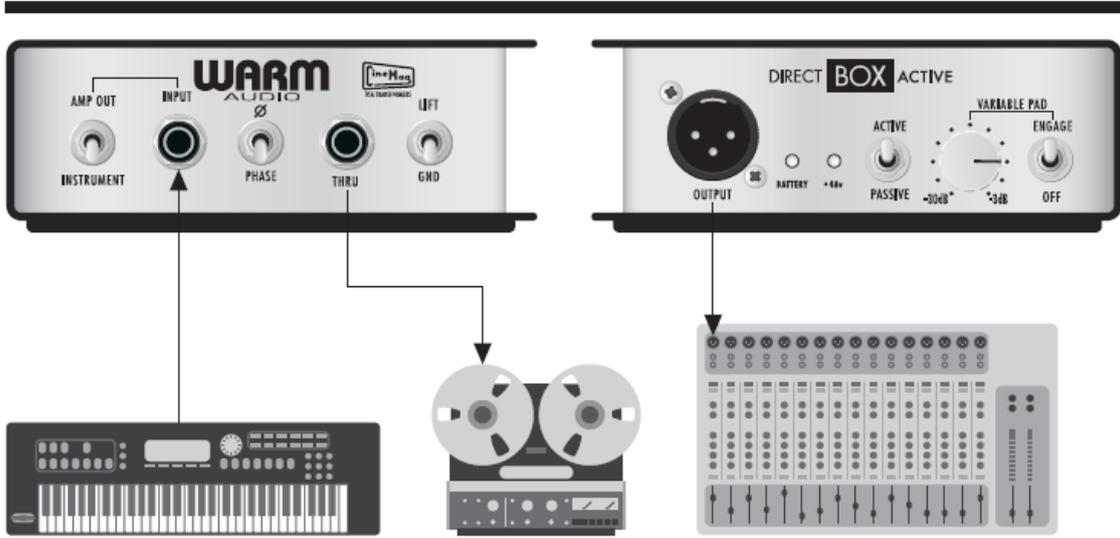
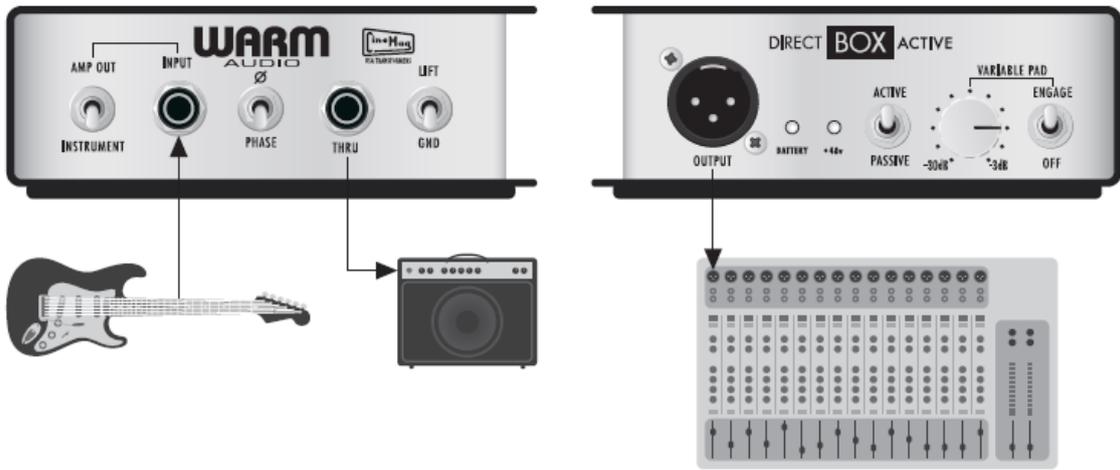
### 接続を行う前に

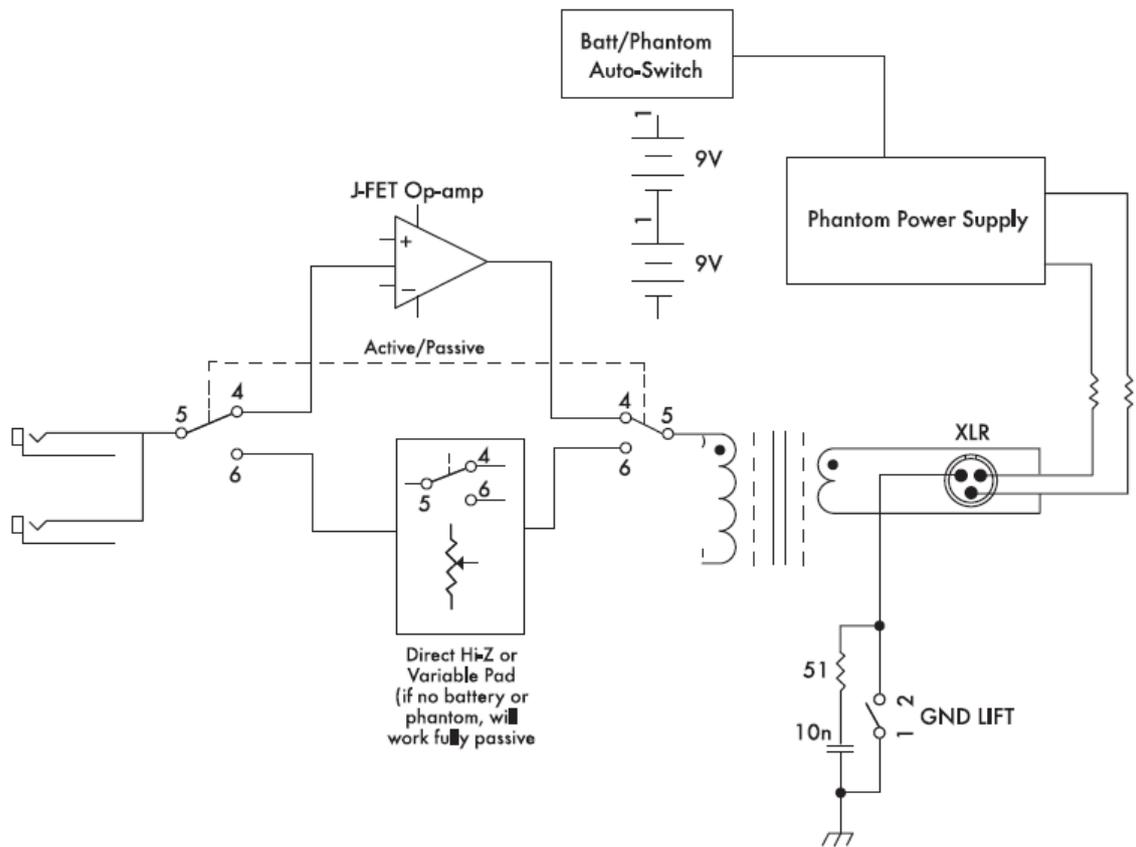
オーディオシステムまたは他の対象機器が **OFF** になっていることを確認し、すべてのレベルをゼロに設定してください。これにより、突然大きな音が発生した場合でも、オーディオシステムやスピーカーが損傷するのを防げます。

### 接続例

ギターを例に説明すると、まず、楽器を DI の 1/4 インチ・INPUT 端子に接続します。次に、THRU 端子を使用して、楽器からの信号をステージまたはスタジオのアンプに接続します。キーボードやドラムマシンなどの他の楽器の場合、THRU 出力を使用して、2 台目のミキサー、レコーダー、またはモニタースピーカーに接続することもできます。

次に、DI の XLR 出力端子をミキシングコンソールや他の対象機器のマイク入力端子に接続します。多くの場合、特にライブパフォーマンスの場面では、DI の XLR 出力は「マルチケーブル」と呼ばれるケーブルに接続され、ミキシングコンソールに接続されます。すべてのケーブルを接続したら、PA またはレコーディングシステムの電源を入れ、音量を徐々に上げていきます。すべてが正常に動作していることを確認するために、最初は小さな音量から始めます。ブザー音やハム音が発生する場合は、DI の GND (グラウンド) スイッチを LIFT の位置に切り替えます。





## 各部の名称



### 1. AMP OUT

アンプにより増幅された出力信号を DI ボックスに送り、そこから XLR OUTPUT、ミキサーへと送る場合に使用します。この方法では、アンプを通したサウンドを得ながら、それをダイレクトにミキサーに送ることができます。この方法では、アンプにマイクを立てる必要はありません。他のすべての用途では、INSTRUMENT を選択します。

#### 警告

「AMP OUT」入力を使用する場合、過熱を防ぐために、アンプを通した出力を「THRU」からギターアンプや楽器用アンプに繋がないでください。

### 2. INPUT

楽器を接続する際に使用する入力端子です。

### 3. PHASE (位相反転)

位相が反対に配線された XLR ケーブルを修正する際に便利です。また、フィードバックや他の位相に関連する問題を防ぐのにも役立ちます。

4. **THRU** コネクター

楽器の信号をアンプ、2 台目のミキサー、レコーダー、またはモニタースピーカーに送るために使用できます。

5. **LIFT/GND** (グラウンド)

ハムやブザーノイズを排除するのに非常に役立ちます。どちらかノイズの少ない位置を選択してください。

6. **OUTPUT (XLR)**

シグナルをダイレクトにマルチケーブル、ミキサー、パワードスピーカー、または他の対象機器に送ることができます。

7. **BATTREY**

DI に+48V ファンタム電源が供給されていない場合、**ACTIVE/PASSIVE** スイッチを **ACTIVE** に切り替えると、バッテリーが使用されます。**PASSIVE** モードのままにしておくと、パッシブモードで動作します。

バッテリーモードを使用する場合、本製品には **9V** 電池 **2** 本が必要です。DI 上部のネジ **2** 本と底面のネジ **4** 本を外して電池をセットします。1/4 インチ入力端子に何も差し込まれていない場合、バッテリー電源は自動的に **OFF** になり、不必要な電力の消費を防ぎます。高品質の新しい電池を使用した場合、**1,600** 時間以上のバッテリー寿命を見込むことができます。

8. +48V ファンタム電源を使用している場合は、バッテリー電源は使用されません。

9. **ACTIVE/PASSIVE** スイッチにより、アクティブモードまたはパッシブモードでユニットを使用することができます。バッテリーが取り付けられている場合、および+48V ファンタムパワーが利用可能な場合は、アクティブモードでユニットを使用することをおすすめします。どちらのモードも素晴らしい音質ですが、アクティブモードの方がより用途が広く、一部のハイインピーダンス信号にも適しています。

10. **VARIABLE PAD**

何らかの歪みが聞こえたら、まずミキサーや他の機器の入力をチェックしてください。入力コントロールに問題がないようであれば、DI の可変パッドノブを **-30dB** に設定し、可変パッドスイッチを **ENGAGE** にします。これにより、非常に高い出力のソースによる歪みがなくなります。この時点で、楽器を演奏しながら、可変パッドノブを **-30dB** から **-3dB** まで時計回りにゆっくりと回し、ミキサーや他のデバイスに対して、音量が低すぎず、高すぎない適切なレベルになるように調整してください。

## 仕様

周波数特性	10Hz～90kHz +/- 0.5dB
リニア特性	+/- 0.05dB 20Hz～50kHz
THD	0.1% (20Hz～50Hz) 、0.03%未満 (50Hz～20kHz)
入力インピーダンス	1MΩ
バランス出力	600Ω
パッド	3dB から 30dB まで可変
電源	+48V ファントム電源/9V 電池 x 2